



西3をアピール



●回復期リハビリテーション病棟について・・・



療報酬改定に向けて準備が進むなか、日々のケアにもより一層力を入れて下さっています。

リハビリテーション室との関わりが最も多い病棟、と言っても過言はない病棟ですので、今回は西3階病棟のアピールをたっぷりとお届けします。



回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの患者様に対して、

ADL能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリテーションプログラムを、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー等が共同で作成し、プログラムに基づいたリハビリテーションを集中的に行うための病棟です。

これらの患者さんに対し、チームの各担当スタッフが入院後すぐ、寝たきりにならないよう、起きる、食べる、歩く、トイレへ行く、お風呂に入るなど（これらを「日常生活動作」(ADL)といいます)への積極的な働きかけで改善を図り、家庭復帰を支援していきます。

ケア10項目宣言をもとに (対象者：西3階病棟Ns、CW計15名)

#今回はアンケートにご協力いただきました。



Q. リハビリ病棟として最も力を入れているケア・支援について

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1位 排泄 | 2位 多職種との情報共有 | 3位 転倒・転落対策 |
| 4. 看護・リハ計画立案 | 5. 入浴 | 6. 食事 |
| 7. 整容 | 8. 看護ケア | 9. 家族へのケア |
| | | 10. 更衣 |



リハビリ病棟の トイレ環境と工夫点！！



～リハビリ病棟での排泄に対する取り組み～

①排泄機能評価：入院患者様全員に、入院時の排泄状況を評価しています。

患者様の心身機能、排泄機能、移動手段などを確認し、おひとりおひとりに合った排泄支援を検討します。

②日中、夜間の支援方法：急性期病棟でポータブルトイレを終日使用していた患者さまでも、日中の活動性向上、動作能力向上を目的に、病棟トイレでの排泄支援を行います。就寝前にはポータブルトイレをベッドサイドに設置し、安心して夜間を過ごしていただくことも出来ます。

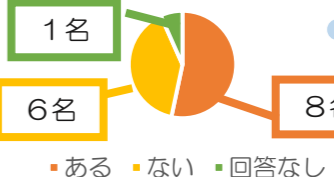
③転倒予防対策：患者様の使用されている車椅子、歩行器、杖等に、ネームプレートをお付けします。色ごとに支援・見守りの程度をみえる化しており、病棟職員、リハビリスタッフが一目で支援の程度を把握することができます。

瀬川師長よりコメント

リハビリを受ける患者様の快適な療養生活の為、患者さまのニーズの聞き取りをしっかりと行い、個別的なケアを大切にしています。特に、チームとして機能するように努力しています。日々のケアが点ではなく、線につながるよう記録の充実を行い、チームで関わることを目指しています。

西3のスタッフに聞きました

POS通信を見たことが



あまり知られていないんだなあ...
もっと認知度を高める為に頑張ります！
編集委員一同